

授業科目	オーラルヘルスケア					実務家教員担当科目	-				
単位	1	履修	選択	開講年次	4	開講時期	後期				
担当教員	布花原 明子、隅田 由加里、定永 敦司										
授業概要	<p>オーラルヘルスは自分の口から食べること、健康に生きることの礎です。超高齢社会において生涯にわたる歯と口腔の健康づくりと予防は、「健康寿命の延伸」の実現に向けた重要課題の一つになっています。</p> <p>口腔の健康は全身の健康状態に影響を及ぼしており、全身疾患の発症や重要化を予防するために看護職がオーラルヘルスケアを担う意義は大きく、受講生が自身の卒後の進路を見据えて、関係職種との連携と看護職の役割を展望し学びを深めていきます。単に口腔を清潔にすることではなく、「人生の最期まで自分の口で美味しく食べ続けたい」という普遍的ニーズをもつ、様々なライフステージと健康状態にある対象に対して支援できるよう、知識・技術および態度の修得を目指します。</p>										
授業形態	対面授業				授業方法	グループワーク					
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<p>1. オーラルヘルスケアの意義・目的を述べることができる。(DP1-2)</p> <p>2. 国のオーラルヘルス（歯・口腔保健）対策を述べることができる。(DP1-2)</p> <p>3. 口腔内の主な疾患および口腔の健康が全身疾患に及ぼす影響について述べることができる。(DP1-2)</p> <p>3. ライフステージや健康状態等、対象の特性に応じたオーラルヘルスケアの方法について述べることができる。(DP2-1)</p> <p>4. 口腔状態と機能のアセスメント及び口腔ケアについて模擬的に事例を設定し実施できる。(DP2-1, DP3-1, DP4-1)</p> <p>5. オーラルヘルスケアにおける多職種連携と看護職の役割について述べることができる。(DP2-1)</p>										
理想的レベル	<p>オーラルヘルスケアを実践するための基礎的な知識・技術を修得し、事例を設定しオーラルヘルスケアを模擬的に実施できる。</p> <p>卒後の進路をふまえ、オーラルヘルスケアにおける多職種連携と看護職の役割について展望できる。</p>										
評価方法・評価割合											
評価方法			評価割合（数値）			備考					
試験			0								
小テスト			0								
レポート			30%			授業時に提示する最終レポート課題					
発表（口頭、プレゼンテーション）			15%			発表時の意欲、態度					
レポート外の提出物			50%			看護実践の計画、実施後の振り返りシート					
その他			5%			授業や課題に取り組む態度					
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU21410J

学習課題（予習・復習）		1 回の目安時間（時間）
<p>授業の予習復習は毎回行ってください。</p> <p>テーマに沿って事例展開を行います。テーマを設定し発表するまでに行った自己学習、収集した情報等は「レポート以外の成果物」として評価します。詳細は授業時に説明します。</p>		4
授業計画		
第 1 回	1. オーラルヘルスにおける現状と課題、国の対策 2. オーラルヘルスケアの意義・目的、看護職の役割 （布花原）	
第 2 回	1. 口腔医学の基礎知識 2. 健康問題（糖尿病、がん化学療法）と口腔医学との関連 （定永）	
第 3 回	1. ライフステージにおける指導上のポイント 2. 特別な状態にある人の指導上のポイント （隅田）	
第 4 回	テーマを設定し、健康課題の解決に向けて、口腔のアセスメント及び口腔ケアの計画を立案、実施、評価の過程を展開する。（計画立案） （布花原、定永、隅田）	
第 5 回	テーマを設定し、健康課題の解決に向けて、口腔のアセスメント及び口腔ケアの計画を立案、実施、評価の過程を展開する。（計画修正） （布花原、定永、隅田）	
第 6 回	テーマを設定し、健康課題の解決に向けて、口腔のアセスメント及び口腔ケアの計画を立案、実施、評価の過程を展開する。（プレゼンテーション準備） （布花原、定永、隅田）	
第 7 回	テーマ発表・意見交換・振り返り ※第 7 回、8 回は続けて実施する （布花原、定永、隅田）	
第 8 回	テーマ発表・意見交換・振り返り オーラルヘルスケアにおける多職種連携と看護師の役割について （布花原、定永、隅田）	
テキスト	必要時、プリントを配布する。	
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	・一般社団法人 日本口腔ケア学会看護部会編：ライフステージに沿った口腔ケアガイド，メヂカルフレンド，2023. ・成人看護学講座[15]歯・口腔，医学書院，第 14 版，2020. ・水田祥代・窪田恵子監：看護で教える最新の口腔ケア，大道学館出版部	
課題に対するフィードバックの方法	検討される課題に対して、フィードバックしながら授業を進行します。	
学生へのメッセージ・コメント	現在の保健医療福祉の現場では、このオーラルヘルスケアの大切さが再認識され、チームとしての活動も増えています。多職種が関わるオーラルヘルスケアにおいて看護師・保健師の果たす役割が期待されているのです。	

口腔は、消化管、場合によっては気道の入り口となり、味覚、咀嚼や嚥下、構音に加え、生体防御の働きを持ちます。発育や加齢、生活習慣、疾患・治療により、口腔内の環境はさまざまに変化し、全身状態に影響を与えます。歯周病が関節リウマチの発症に関連するという報告もあります。代表的な口腔疾患について概説し、がん患者に対するオーラルケアに加え、人工呼吸器使用中の患者など、特別な状態にある患者のオーラルケアについて学習します。また、公衆衛生の知識として健康寿命の延伸とオーラルフレイル対策についても触れてきます。そして、ライフステージや健康状態等、対象の特性に応じたオーラルヘルスケアの方法を学び、皆さんも全身の健康に寄与するオーラスヘルスケアの知識と技術を修得して看護職として社会に飛び立ちましょう。

